

昭和→平成→令和

キーワードの一つ 「多様性」

幅広く性質の異なる群が存在すること。性質に類似性のある群が形成される点  
が特徴で、単純に「いろいろある」こととは異なる。(Wikipedia)

最近、多様性社会、多様な世の中といわれるようになってきました。そう言  
えば、昭和時代の頃は、価値観が一つであったり、同じ性質の大きな群が一つで  
あったりしていたような気がします。しかし、平成時代になって、一つの事象に  
対して、価値観が幾つもでてきたり、異なる性質の群がいくつも存在したりして  
きました。

昭和時代の学校は、「みんなで同じことを、同じペースで、同質性の高い学級の中で、教科ごとの出来  
合いの答えを、子どもたちに一斉に勉強させる」だったような気がします。多様性社会を考えたときに、  
令和の学校は「 … 」どうなるのでしょうか。一緒に考えましょう。

参考文献 「学校をつくり直す」 苫野一徳著 河出新書



Q1 運動会までに時間がないんですけど…

※多様性は

A1 今ある力を少し高めて、今できることを精一杯やる運動会（学びに向かう力の向上：「学び」）  
→子どもたちに目標を持たせ、その自己評価、他者評価を大切にしたい。

→係り活動から、各種の力を高める。8学年の委嘱状

A2 1年～9年生が共有する運動会（子どもも職員もみんなで活動：「人間性」）

→異学年との活動や、他学年の活動の見学を通して、温かな人間性の涵養やめざす姿の確認を  
行いたい。職員同僚性の向上。※5月開催のよさ。子どもも職員も一つの活動を行うこと。

Q2 「しなのスタンダード」はすべての授業で行うの？

A1 「学校教育計画」より

・「教育計画の基本」…「しなのスタンダード」を徹底する。

・「教科研究推進部」…「しなのスタンダード」をベースに、先生方の特色を生かした授業をお  
考えください。

A2 3つのパターン

※多様性は

・「しなのスタンダード」の授業

・探究的な授業 困ったことや興味を持ったことを自ら解決していく授業

① 課題解決型 ② 知的発見型 ③ 創造型

・習得的な授業

Q3 暴言、暴力も多様化？

A1 JBDでは、今年の4月に「暴言、暴力的行為に対する対応方針」を発表しました。

・テクニカルファウルの対象となる言葉 「最低、クズ、きもい、下手くそ、…」

・「おい！」と大声で高圧的威嚇的に指導する行為

難しい世の中ですが、「小さな取り組みをどの教室・どの先生も成果があがるまで取り組む」を合言葉  
に、先生方が自分らしさを発揮することを期待したい。